

『痴呆(ちほう)』の呼び名が 『認知症(にんちしょう)』に替わります。

『認知症』
ってなあに？

『認知症』に替わる今だからこそ、誤解をなくし、正しい認識を。

- ① 侮蔑感を感じさせる表現だから
- ② 『痴呆』の実態を正確にあらわしていないから
- ③ 早期発見・早期診断の取り組みの支障になっているから

『痴呆』の
新しい呼び名が
『認知症』です。

認知症

『痴呆』とは、成人に起こる認知(知能)障害です。『認知障害』という言葉はすでに精神医学の領域で多様に使われているため、混乱を避けるために認知機能に関するなんらかの“障害”を有する状態(病気の状態)を表す言葉ということで、『認知症』に決定されました。

早期発見・早期治療が大切！

認知症を放っておくと、症状をどんどん悪化させてしまいます。早期に治療を受ければ進行をゆるやかにすることができるので、迷わず医師に相談しましょう。診察を受けるのは、本人のことをよく知るかかりつけの医師か認知症の専門医(医療機関の老人科・精神科・神経内科など)へ。

■ 認知症と単なるもの忘れのちがい

認知症のもの忘れの場合	単なるもの忘れの場合
体験のすべてを忘れる ごはんを食べた後、食べたこと自体を忘れてしまう。	体験の一部を忘れる ごはんを食べた後、食べたものを忘れることがある。
もの忘れの自覚がない 忘れていることを理解できなくなる。	もの忘れの自覚がある 忘れていたことに自分で気がつくことができる。
親しい人やよく行く場所がわからなくなる 家族のことや自宅の場所がわからなくなる。	親しい人やよく行く場所は忘れない 毎日一緒にいる家族や自宅の場所などを忘れることはない。
性格に変化がある 怒りっぽくなったり頑固になったりする。	性格は変わらない 態度に変化はない。
自分の今いる場所や時間がわからなくなる 自分がどこにいるかわからなくなったり、昼や夜の区別がつかなくなったりする。	自分の今いる場所や時間がわかる 自分がどこにいるのかわからなくなることはない。

【問い合わせ先】

大崎町役場 高齢者対策課 高齢者福祉係 TEL 76 - 1111 (内線 132・133)